

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472202355	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	有限会社 湘南ホームフレンド		
事業所名	ホームフレンド湘南台		
所在地	(252-0505) 神奈川県 藤沢市 円行 1-10-20		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年1月19日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームフレンド湘南台では、ご利用者様が自分らしく、生き生きと暮らしていけるよう支援しています。出来ることは自身で行って頂き、機能を維持していけるよう、ご利用者様一人ひとりに合わせたケアに努めています。ご利用者様と共に暮らしてゆく中で、信頼関係を築き、支え合い、笑顔あふれる、あたたかな雰囲気づくりを心がけています。また、社会の一員として、地域との関りを大切にしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年3月26日	評価機関 評価決定日	令和3年6月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急江ノ島線・横浜市営地下鉄線・相模鉄道線の「湘南台」駅から「文教大学行き」のバスで5分、「桐ヶ谷」バス停下車徒歩5分の所にあります。周りは一戸建てやマンションが建ち並ぶ閑静な住宅地です。近くには桐谷公園や引地川沿いの桜並木遊歩道があります。

<優れている点>

利用者が、その人らしく安心して生きがいを持って暮らせるように、自分の出来る事は自分自身で行う残存能力を維持するため、事業所は一人ひとりに合わせた自立支援をしています。利用者は食事の準備や後片付けなど、自分の出来る事を当たり前のようにしています。今年にはコロナ禍で、利用者が楽しみにしていた自治会の祭りや健康体操などの中止や自粛が続いていますが、出来る限り毎日散歩に行き、近所の人々と挨拶を交わしています。感染防止のため直接の面会ができない為、ネットのラインアプリを利用してオンライン面会を実施し、利用者・家族に喜ばれています。運営推進会議は工夫して書面会議にしています。事業所の活動報告、事故報告などを書面にして従来の出席者に送り、意見などを返信してもらってサービスに活かしています。

<工夫点>

事業所前の目立つ所に事業所紹介の大きな看板を出しています。リビングや利用者の日常の楽しそうな様子などが写真付きで掲示されています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ホームフレンド湘南台
ユニット名	1F

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「共に暮らす。共に学ぶ。共に笑う。」という理念のもと、ご利用者様一人ひとりに寄り添い、笑顔で暮らしていけるよう努めている。	理念は1階、2階の事務所の前に掲示しています。職員は、利用者のその人らしい暮らし、生き方を実現するために、プライバシーを確保しつつ、尊厳を守り、多様な場面を「共感」し、分かち合いながら、寄り添う介護を実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会には加入しており、地域行事の健康体操や美化活動、その他の行事にも参加し、地域の方と関りが持てるよう努めてきたが、今年は全て自粛しなければならなくなっている。	利用者は毎年の自治会の納涼祭を楽しみにしていますが、今年はコロナの影響で中止になっています。歌や手品、フラダンスなどのボランティアの来訪もありましたが、今年は自粛しています。近隣の人たちとは毎日の散歩の際に挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事参加や、ボランティアの受け入れ等で、関わる機会を設け、認知症の人を理解して頂きたいが、今年は機会を設けることができなかった。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、施設状況を説明し、意見を頂き、活かせるよう努めている。今年は書面会議となっている。	コロナ禍の中でも工夫して、書面での運営推進会議を開催しています。利用者状況や職員体制、事業所行事、事故報告など活動内容を丁寧にまとめ、市介護保険課や地域包括支援センター、民生委員に送り、意見などを文書で貰ってサービスに活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故内容、トラブルの報告、指示を仰ぐ時など連絡している。グループホーム連絡会は中止となり、介護相談員の受け入れは中止している。	市介護保険課や地域包括支援センター職員は運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から連絡を取り合い、事業所の実情を伝え、協力関係を築いています。地域包括支援センター担当者から地域の健康体操を教えて貰い、週1回参加する様になっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入口のドアは安全面を考慮し施錠しているが、要望があれば解除するよう対応している。提供しているケアが拘束になっていないか考え、話し合いケアに取り組んでいる。	「身体拘束実施・廃止マニュアル」を備え、3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催しています。虐待やスピーチロックを含む身体拘束について、職員の普段からの言動や利用者への声掛け、態度、関わり方などについて話し合い、意識して支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の事例はないが、今後も起こらないよう、正しい知識を得て、理解を深めていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度に関して学ぶ機会を設けることができていない。研修参加や自身で学ぶことを意識し、必要とされる方に活かせるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、家族の困り事や疑問を伺いながら、ホームでできること、できないことを説明、確認し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族へは、日々の生活の様子や、変化を伝え、相談し、意見や要望を伺い、ケアに取り入れるよう努めている。	面会や誕生会、花見会、地域の祭りなど家族と一緒にイベント時には、積極的に話しかけ、利用者の日常の様子や変化などを伝えています。意見や要望を聞き、支援に反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なユニット会議を実施し、意見や提案しやすい環境作りに努めている。また、発言のしづらさがあることに配慮し、個々に意見を聞く機会ももつように努めている。	月1回のユニット会議では、意見を出しづらい職員を考慮し、事前に書面で意見を出してもらうなど、広く職員全員の意見や提案を出しやすい環境です。朝・夕の申し送り時にも意見を聞き、運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回、職員の実績や勤務状況を評価し、働きやすい環境を作れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で様々な研修を考えているが、コロナ禍で実施が難しくなっている。事業所内で学べる機会を設けていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会や研修などで交流を持てる機会はあると思うが実施できていない。コロナの影響もあるが、他事業所と関わりを持ち、サービスの向上に繋げられるようにしていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人様と面談を行い、心配事や要望を伺っている。入居後はご本人様との関りの中で気付いたこと等を職員で共有し、信頼関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご家族様からは、困りごとや不安、これからの生活に関する要望などを伺っている。入居後も生活の様子や変化などを伝え、相談や意見を伺い、信頼関係を築くとともに、協力し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様と面談し、状態の把握に努めるとともに、優先させるべきを見極め、提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お互いができることを行い、共に暮らす中で、助け合い、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、生活の様子や変化を連絡したり、定期的な手紙などで伝えている。報告や相談を行い、協力を仰ぎ、共にご本人様を支えていける関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時間を制限せず、ご家族、親戚、友人の方に来訪して頂けるようにしている。現在はコロナの影響で制限しており、オンライン面会をお願いしている。状況によっては直接の面会も検討している。	利用者が今まで大切にしてきた人間関係や習慣、馴染みの場所などは、利用者本人や家族から把握しています。今年はコロナの影響で直接の面会は制限していますが、ラインアプリを利用したのオンライン面会を実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係性を把握、職員間で共有し、ご利用者様同士が交流を持てるよう、必要に応じ、職員が間に入るなどして、ご利用者様同士が協力し合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も気軽に立ち寄って頂けるよう、何かあった際には、ご相談頂けるよう話しをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、一人ひとりに寄り添い、言動や様子などから想いをくみ取るよう努めている。意思表示が難しい際は、本人本位に考え、ご家族様にも相談している。	普段から利用者とのコミュニケーションを大切にしています。会話から思いを探ったり、利用者同士の会話に耳を傾けたりしています。日頃から職員同士で気付いた事を話し合っています。カンファレンスの時に纏め、職員間で情報共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、日々の過ごし方や、サービスの利用状況、サービスを受けるご本人様の様子などを伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの1日の過ごし方や、状態の把握に努め、記録や申し送りにより、職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様の生活への要望や、職員の気付きや意見をケアプランに取り入れるようにしている。また、ご本人様の状態が変わった際は、ケアプランも変更している。	ケアプラン作成の前に、利用者や家族の意見・要望を聞き、ケアプランに取り入れるようにしています。毎月開催しているカンファレンスで問題点や対応について話し合い、その内容もケアプランに盛り込んでいます。急変時にはその都度見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の言動や様子などを個人記録に残している。気づきや、工夫したこと、実践した結果なども記録に残し、職員間で共有し、活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族様の状況の把握に努め、要望に応じ、確認しながら、極力対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握に努め、暮らしの中に活かせるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診、週1回の歯科往診が入っている。入居前からのかかりつけ医へは、ご家族での対応をお願いしているが、難しい際は職員が付き添い、結果を報告している。	協力医療機関の内科医は月2回往診しています。個別の通院は基本的には家族の同行ですが、ケースにより職員が支援しています。通院した時の受診情報は「連絡ノート」に記載し、職員全員で共有しています。歯科医師は週1回、往診しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の関わりの中で、気付きや様子の変化を報告、相談し、指示を仰ぐことで、適切な処置や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるレベル低下を抑えるために、ホームでの対応が可能となった時点で、早めに退院できるよう働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族、主治医、看護師、ホームで話し合いを重ね、ホームで対応できること、できないことを説明し、家族の希望に添えるよう、カンファレンスを行い、関わる全員で共有し、ケアに努めている。	契約時に「重度化した場合の対応に関する指針」に基づいて本人や家族に説明し、方針を確認しています。事業所で看取りを希望する場合は、重度化した際に「グループホームにおけるターミナルケアの指針」を説明し、段階に応じて看取り計画書を作成しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時には管理者やリーダーに連絡が入り指示を出す形になっているが、研修やマニュアルの周知を図り、職員一人ひとりが適切な対応や処置が行えるようにしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中、夜間想定で、ご利用者様も参加し消防、避難訓練を行うようにしている。今年は実施できていない。	避難訓練は夜間想定を含め年2回、利用者も参加して行っています。消火器による初期消火や利用者による外部への避難経路の確認、脱出後の利用者の保護、連絡網による家族への報告などを確認しています。災害に備え、食料品や飲料水など3日分を備蓄しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけや介助の際は、自尊心や羞恥心に配慮している。その人らしさを大切にしたい関わりに努めている。	職員は利用者一人ひとりを年長者として敬い、その人らしさにこだわった呼びかけをしています。特にトイレや入浴時には羞恥心や自尊心に配慮して誘導しています。不適切な対応に気が付いた時にはその場で注意したり、ミーティングで話し合ったりしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思い込みや、職員優位で決めつけることなく、ご本人様の意思や思いを引き出せるように関わり、自身で決めることができるよう、問い方にも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れはあるが、一人ひとりの生活のペースに合わせ、制限を設けることなく、自由に過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身で洋服が選べる方には自身で選んで頂いている。介助が必要な方でも、季節感や色味など、ご本人様に合うよう配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの摂取量や、嚥下の状態を把握し、自身の力を活かせる食具の準備、食べやすい量、形態で提供している。調理や盛り付け、片付けなども一緒に行っている。お弁当を作るなどの調理レクも行っている。	食材は業者に委託し、昼食と夕食は調理専門の職員が担当しています。外食や季節の行事食や敬老会、誕生会には利用者の好みに合わせたケーキ作りなども楽しんでいます。利用者は食事の準備や片付けなど、出来る範囲で当たり前のように手伝っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事、水分の摂取量は記録に残し共有している。必要量を摂って頂けるよう、好きなものの提供や、摂りやすい形態での提供、細目に提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。訪問歯科で指示や指導を受け活かせるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄のリズム、状態を把握するようにしている。時間をみて声かけ、誘導を行ったり、ご本人様の様子から排泄のサインをくみ取り案内を行っている。	トイレの誘導時には適切な声掛けを行い、プライバシーに配慮しています。排泄パターンを把握して排泄のリズムにあった支援を行うよう努めています。失禁した場合、職員は特に言葉を慎重に選び、本人が嫌な感情を持たないように心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、排便の状態を把握するようにしている。毎日の牛乳提供や、水分摂取量にも気を配っている。毎日、体操を行ったり、散歩に出かけるなど、身体を動かして頂けるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上の入浴ができるよう配慮しているが、午前中の中の入浴が基本となっている。入浴したい日、時間などの要望があれば添えるよう、対応していきたい。	基本的には週2回利用者一人ひとりの要望を尊重し、本人の体調に対応しています。自立度の高い利用者は一人だけの入浴を楽しめるよう最低限の声掛けに留めています。入浴前には体温や血圧などのバイタルチェックをし、入浴後は皮膚の乾燥に注意しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は活動的に過ごし、夜はぐっすり眠れるよう、生活リズムを整えることに配慮している。ご本人様の状態によって、日中でも休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情ファイルを作成し、職員が確認できるようにしている。薬の変更があった際は連絡帳や申し送り共有できるようにしている。服薬の際は職員2人でダブルチェックを行い、誤薬の予防に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの好きなことや、得意なことを把握し、力を発揮して頂けるよう、出来ること、出来そうなことを積極的にお願いしている。レクリエーションを企画し、準備から一緒に行って頂き、楽しんで頂けるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出支援は積極的に行っていきたいが、コロナの影響で難しくなっている。現在は毎日の散歩以外は外出できていない。	午前中は利用者の体調や気候に合わせて日常的に散歩に出かけています。季節に合わせて、花見やドライブ、買物、外食などに出かけています。事業所の中庭で野菜や花々を育てながら外気浴をしています。月に1度来る移動パン屋から好物を買っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身でお金を管理されているご利用者様はいないが、買い物の際にお金を渡し、お会計をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	かかってきた電話をつないだり、手紙が届くことはある。ご利用者様から電話や手紙の要望はほとんどないが、こちらから声をかけ、繋がりを大切にしたい支援に努めたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内の明るさや、温度、湿度には配慮している。また、季節感を感じられるような装飾を意識している。	広いリビングは建物中央にあり、その周りに利用者の居室が配置されています。調理している職員からも目が届きやすくなっています。リビングのコーナーに小さな和室があり、利用者はのんびり過ごしています。広い庭には金木犀が咲き、ベランダにも花々が寄せ植えされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	過ごす場所を制限せず、ご利用者様は、ソファや和室の畳などで談笑されたり、自室でマイペースに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	新しい環境の中で少しでも混乱を抑えられるように、使い慣れた家具や食器をお持ち頂くようにしている。	職員は家族と話し合い、安全に配慮した上で、居室に利用者の好みや馴染みの品々を持ち込んでいます。家族の写真やテレビ、ダンス、仏壇など居心地よく過ごせるよう、工夫しています。本人の動線にも配慮して自宅の様子に近い配置を心掛けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は、動線を考慮し、家具を配置している。分からなくなることに配慮し目印をつけたりしている。		

事業所名	ホームフレンド湘南台
ユニット名	2F

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「共に暮らす。共に学ぶ。共に笑う。」という理念のもと、ご利用者様一人ひとりに寄り添い、笑顔で暮らしたいけるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会には加入しており、地域行事の健康体操や美化活動、その他の行事にも参加し、地域の方と関りが持てるよう努めてきたが、今年は全て自粛しなければならなくなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事参加や、ボランティアの受け入れ等で、関わる機会を設け、認知症の人を理解して頂きたいが、今年は機会を設けることができなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、施設状況を説明し、意見を頂き、活かせるよう努めている。今年は書面会議となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事故内容、トラブルの報告、指示を仰ぐ時など連絡している。グループホーム連絡会は中止となり、介護相談員の受け入れは中止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入口のドアは安全面を考慮し施錠しているが、要望があれば解除するよう対応している。提供しているケアが拘束になっていないか考え、話し合いケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の事例はないが、今後も起こらないよう、正しい知識を得て、理解を深めていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度に関して学ぶ機会を設けることができていない。研修参加や自身で学ぶことを意識し、必要とされる方に活かせるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、家族の困り事や疑問を伺いながら、ホームでできること、できないことを説明、確認し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族へは、日々の生活の様子や、変化を伝え、相談し、意見や要望を伺い、ケアに取り入れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なユニット会議を実施し、意見や提案しやすい環境作りに努めている。また、発言のしづらさがあることに配慮し、個々に意見を聞く機会ももつように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回、職員の実績や勤務状況を評価し、働きやすい環境を作れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で様々な研修を考えているが、コロナ渦で実施が難しくなっている。事業所内で学べる機会を設けていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会や研修などで交流を持てる機会はあると思うが実施できていない。コロナの影響もあるが、他事業所と関わりを持ち、サービスの向上に繋げられるようにしていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人様と面談を行い、心配事や要望を伺っている。入居後はご本人様との関りの中で気付いたこと等を職員で共有し、信頼関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご家族様からは、困りごとや不安、これからの生活に関する要望などを伺っている。入居後も生活の様子や変化などを伝え、相談や意見を伺い、信頼関係を築くとともに、協力し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様と面談し、状態の把握に努めるとともに、優先させるべきを見極め、提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お互いが出来ることを行い、共に暮らす中で、助け合い、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、生活の様子や変化を連絡したり、定期的な手紙などで伝えている。報告や相談を行い、協力を仰ぎ、共にご本人様を支えていける関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時間を制限せず、ご家族、親戚、友人の方に来訪して頂けるようにしている。現在はコロナの影響で制限しており、オンライン面会をお願いしている。状況によっては直接の面会も検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係性を把握、職員間で共有し、ご利用者様同士が交流を持てるよう、必要に応じ、職員が間に入るなどして、ご利用者様同士が協力し合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も気軽に立ち寄って頂けるよう、何かあった際には、ご相談頂けるよう話しをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、一人ひとりに寄り添い、言動や様子などから想いをくみ取るよう努めている。意思表示が難しい際は、本人本位に考え、ご家族様にも相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、日々の過ごし方や、サービスの利用状況、サービスを受けるご本人様の様子などを伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの1日の過ごし方や、状態の把握に努め、記録や申し送りにより、職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様の生活への要望や、職員の気付きや意見をケアプランに取り入れるようにしている。また、ご本人様の状態が変わった際は、ケアプランも変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の言動や様子などを個人記録に残している。気づきや、工夫したこと、実践した結果なども記録に残し、職員間で共有し、活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族様の状況の把握に努め、要望に応じ、確認しながら、極力対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握に努め、暮らしの中に活かせるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診、週1回の歯科往診が入っている。入居前からのかかりつけ医へは、ご家族での対応をお願いしているが、難しい際は職員が付き添い、結果を報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の関わりの中で、気付きや様子の変化を報告、相談し、指示を仰ぐことで、適切な処置や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるレベル低下を抑えるために、ホームでの対応が可能となった時点で、早めに退院できるよう働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族、主治医、看護師、ホームで話し合いを重ね、ホームで対応できること、できないことを説明し、家族の希望に添えるよう、カンファレンスを行い、関わる全員で共有し、ケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時には管理者やリーダーに連絡が入り指示を出す形になっているが、研修やマニュアルの周知を図り、職員一人ひとりが適切な対応や処置が行えるようにしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中、夜間想定で、ご利用者様も参加し消防、避難訓練を行うようにしている。今年は実施できていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけや介助の際は、自尊心や羞恥心に配慮している。その人らしさを大切にしたり関わりに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思い込みや、職員優位で決めつけることなく、ご本人様の意思や思いを引き出せるように関わり、自身で決めることができるよう、問い方にも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れはあるが、一人ひとりの生活のペースに合わせ、制限を設けることなく、自由に過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身で洋服が選べる方には自身で選んで頂いている。介助が必要な方でも、季節感や色味など、ご本人様に合うよう配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの摂取量や、嚥下の状態を把握し、自身の力を活かせる食具の準備、食べやすい量、形態で提供している。調理や盛り付け、片付けなども一緒に行っている。お弁当を作るなどの調理レクも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事、水分の摂取量は記録に残し共有している。必要量を摂って頂けるよう、好きなものの提供や、摂りやすい形態での提供、細目に提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。訪問歯科で指示や指導を受け活かせるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄のリズム、状態を把握するようにしている。時間をみて声かけ、誘導を行ったり、ご本人様の様子から排泄のサインをくみ取り案内を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、排便の状態を把握するようにしている。毎日の牛乳提供や、水分摂取量にも気を配っている。毎日、体操を行ったり、散歩に出かけるなど、身体を動かして頂けるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上の入浴ができるよう配慮しているが、午前中入浴が基本となっている。入浴したい日、時間などの要望があれば添えるよう、対応していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は活動的に過ごし、夜はぐっすり眠れるよう、生活リズムを整えることに配慮している。ご本人様の状態によって、日中でも休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情ファイルを作成し、職員が確認できるようにしている。薬の変更があった際は連絡帳や申し送りでも共有できるようにしている。服薬の際は職員2人でダブルチェックを行い、誤薬の予防に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの好きなことや、得意なことを把握し、力を発揮して頂けるよう、出来ること、出来そうなことを積極的にお願いしている。レクリエーションを企画し、準備から一緒に行って頂き、楽しんで頂けるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出支援は積極的に行っていきたいが、コロナの影響で難しくなっている。現在は毎日の散歩以外は外出できていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身でお金を管理されているご利用者様はいないが、買い物の際にお金を渡し、お会計をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	かかってきた電話をつないだり、手紙が届くことはある。ご利用者様から電話や手紙の要望はほとんどないが、こちらから声をかけ、繋がりを大切にしたい支援に努めたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内の明るさや、温度、湿度には配慮している。また、季節感を感じられるような装飾を意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	過ごす場所を制限せず、ご利用者様は、ソファや和室の畳などで談笑されたり、自室でマイペースに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	新しい環境の中で少しでも混乱を抑えられるように、使い慣れた家具や食器をお持ち頂くようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は、動線を考慮し、家具を配置している。分からなくなることに配慮し目印をつけたりしている。		

2020年度

事業所名 ホームフレンド湘南台

作成日： 令和 3年 6月 25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員は自身の考えや、こうしたいという意見を持っているが、業務の際や、会議の場でその意見を発信できる環境が整っていない。	職員が自身の考えを、発言することができる環境を作る。	職員が、周りを気にせずに発言することができるよう、日頃から、管理者、リーダー、職員がコミュニケーションをとる。関わる機会を多く持つようにする。	12ヶ月
2	48	自立度の高い利用者様が増えてきている中、できることの維持や、ご本人様のしたいこと、役割を持って頂くことが難しくなっている。	利用者様が役割を持ち、好きなことができるようにする。	利用者様が好きなこと、得意とすることを把握するために、家事やレクリエーション、イベントなどで色々なことをお願いし、一緒に行って頂く。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月